

# 体験活動参加型+子育てサロン型（こども園）

学校名等	下呂市 たけはらこども園
実施日時	平成30年10月21日（日）9:30～11:30
会場	体育室
参加人数	全園児（110名）・保護者（60名）
学習課題（分野）	～親子ふれあい参観日～ 親子体操・子育て講座
運営者の願い	① 子どもの遊びの環境が変化し、大きく体を動かして遊ぶことが少なくなったので、家庭でもできる子どもの年齢に合った運動を知り、親子のふれあいを深めてほしい。 ② 父親同士が子育て交流をすることで、積極的に育児に関わりたいたいと感じてほしい。

## 学習の内容

### <学習の流れ>

#### 親子体操 ～親子で体を動かそう～

- 園長挨拶
- 講師紹介・挨拶 《すいめいヘルスクラブインストラクター 金子 徹 氏》  
◎お金をかけて栄養を摂っても、睡眠が足りない子どもたちには、体の成長につながらない。  
◎指の動きなども体の成長のひとつとしてとらえ、今日は学びながら動いてほしい。
- 親子体操  
◎くすぐる・触るなどの日常的なふれあいの動作を加えた動き⇒じゃんけんで負けたら、相手を一回りする。  
◎かかと歩き・けんけん・裸足でグーパー・手を合わせて指を動かす・子どもの足を持ち手押し車のように移動する。  
◎頑張ったわが子を抱きしめて、ほめて、頭をさわってあげる。腕、お尻、足をポンポンとたたく。子どもは転んだりする痛みを、感覚で覚えることが大事。
- まとめ  
◎運動のよいところは、見本さえあれば子どもは育っていくもの。いろいろな子どもがいる外の広場に連れ出し、環境を作ってあげることも大事にしてほしい。

#### 子育て講座 ～「家庭教育プログラム」（乳幼児期編）を活用した交流会～

講師 《下呂市市民活動推進課 古守 史英 社会教育主事》

テーマ 《父親の育児参加のすすめ》  
プログラムⅣ親子のコミュニケーション、より「お父さん出番ですよ!!」

- 自己評価  
◎「イクメン」としての5段階評価をする。
  - アイスブレイク  
◎10グループに分かれ、「バースデーチェーン」のゲームを行う。
  - 自己紹介（しりとり自己紹介）  
◎誕生日が一番遅い人が、進行役に決定。
  - 「3つの約束」の確認
  - ワーク1  
◎「初めて子どもを授かったとき」のことを思い出してみる。
  - ワーク2  
◎父親としてもっとかかわりたい（かかわってほしい）育児や家事は何かを考える。
- \*資料「父親の家事・育児に関する意識調査」を配布し、家で読んでもらうようにする。



### <保護者の感想>

- ・グループワーク「初めて子どもを授かったとき」の交流では、感謝の気持ちで頑張ろう！という思いがわきあがり元気が出た。
- ・親が見本となるような動きや、環境作りの大切さを知ることができてよかった。
- ・道具がなくても、子どもを飽きさせない体を使った遊びがいっぱいあることが分かったので、家でもやってみよう。

### <取組の成果>

- ・子育てサロン型の交流をしたことで、地域を越えた保護者間の交流が深まった。
- ・父親が、楽しみながら子どもと遊ぶことを大切に考えるなど、父親自身の子育てへの刺激になった。



### 父親の参加を促す工夫

- ◎父親が参加しやすいように、日曜日開催にした。
- ◎父親が、育児・家事にもっと関わることや、楽しむことを再認識する場となるように、交流プログラムのテーマを、「父親の育児参加」に設定した。



### 学びが深まる 専門家による指導

- ◎丈夫な体と心を育むためには、第一に親自身が体を動かす楽しさを感じ、その習慣をつくっていくことが大切だという話に、保護者の意識と理解が高まった。
- ◎親子でふれあいながら筋力やバランス感覚を養うことを体験し、身体能力の発達について、納得しながらの学びとなった。



### ねらいをもった グループ交流会

- ◎今年度より隣接の上原地区の園児が編入したため、竹原・上原両地区の保護者が交流できるように意図的にグループをつくった。
- ◎プログラム進行を、講師が父親の立場で共感的にリードしたことにより、父親同士が早く打ち解けることができた。
- ◎母親（6名）だけのグループでは、プログラムワーク2をアレンジして進める工夫をした。